

Ⅶ. ERIA 支援事業

アジア経済研究所は、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）の活動に協力する ERIA 支援事業を実施した。

1. 事業の目的

ERIA（Economic Research Institute for ASEAN and East Asia：東アジア・アセアン経済研究センター）は、東アジア経済統合推進に貢献する政策研究・政策提言を行うことを目的に、日本のイニシアティブのもと、東アジアサミット参加 16 カ国が共同で 2008 年 6 月に設立した国際機関である。本事業は、経済産業省等と連携して ERIA の活動を支援することにより、アジア経済圏の一体的な発展と日本の成長に貢献することを目的とする。

2. 2021 年度の主な事業

アジア経済研究所は、経済産業省との協議のもと、調査研究事業、成果普及事業、研究機関ネットワーク会合の運営等、ERIA 支援のための各種事業を実施した。事業実施に際しては、ERIA 及び日本貿易振興機構の海外調査部・海外事務所等との連携を図りつつ、併せて海外 15 カ国の研究機関ネットワークを活用した。

(1) 調査研究事業

ERIA の「経済統合の深化」、「発展格差の是正」および「持続的発展」という 3 つの研究領域において、東アジアの経済統合に寄与する政策研究プロジェクトの支援研究機関として、以下の通り調査研究を実施した。

(1-1) ERIA の研究活動を支援・補完する独自の研究プロジェクト

(1-1-1) メコン地域におけるインクルーシブ・フードバリューチェーン形成

【主査】坂田正三（アジア経済研究所）

【幹事】同上

【委員】高梨子文恵（東京農業大学）、Phanhpakit Onphanhdala (National Institute for Economic Research (NIER), Laos)、Vivat Maikaensam (Panyapiwat Institute of Management, Thailand)、Monruedee Chantharat (Panyapiwat Institute of Management, Thailand)、Pham Bao Duong (Vietnam National University of Agriculture, Vietnam)、Nguyen Thi Thiem (Vietnam National University of Agriculture, Vietnam)

本研究は、メコン地域諸国において近年のフードバリューチェーンの急速な変化に注目し、その経済的、社会的インパクトを評価することを目的としている。本研究では、同地域の近代的流通網の形成、食品加工技術の発達、消費パターンの変化という状況に鑑み、そのような変化の中で、小規模な生産者、流通業者、さらには消費者も裨益する「インクルーシブ・フードバリューチェーン」形成のための技術的イノベーション、制度的構築の必要性について、事例研究を通して論じることを目的とする。

(1-1-2) アジアからの看護師、介護士の国際労働移動とキャリア形成

【主査】 辻田祐子（アジア経済研究所）

【幹事】 初鹿野直美（アジア経済研究所）

【委員】 鈴木有理佳（アジア経済研究所）、小田尚也（立命館大学）、Maria Reinaruth D. Carlos（龍谷大学）、S. Irudaya Rajan(Centre for Development Studies, Thiruvananthapuram, India)、Katrina Navallo（国際機関日本アセアンセンター）、Ferry Efendi(Universitas Airlangga, Indonesia)、Joko Gunawan(Belitung Raya Foundation, Indonesia)

近年、先進国における看護師、介護士の需要の高まりとともに、アジア諸国での看護、介護人材のリクルートが増加している。本研究会では、先進国の看護、介護を支えるアジア諸国出身者の国際労働移動の要因、過程、帰結を検討し、国際労働移動を通じたキャリア形成について明らかにすることを目的とする。COVID-19 の影響についてもあわせて考察する。

(1-1-3) 新興国企業の技術ポジションと産業発展

【主査】 木村公一朗（アジア経済研究所）

【幹事】 同上

【委員】 植木靖（アジア経済研究所）、松井博史（デロイト トーマツコンサルティング合同会社）、元橋一之（東京大学）、甲斐田俊（Abeam Consulting Ltd.）、Gary H. JEFFERSON（Brandeis University, USA）、GONG Zhenyu（Brandeis University, USA）

新興国での技術開発が活発になったことで、企業にとっては、研究開発（R&D）投資を行うか否かのみならず、どのような技術を開発するのか？という技術分野の選択も重要な問題になっている。そこで、本研究会では、企業の技術ポジションを手掛かりに、企業の技術選択と産業発展の関係を分析する。産業発展の過程としてはとくに、競合企業間の相互作用や、産業集積との関係に注目する。そして、企業に対して

は技術選択と業績の関係について、政府に対しては技術開発動向が産業や地域の発展にあたる影響について、新たな知見を提示することを目指す。

(1-1-4) 新興国における契約栽培の制度的分析：カンボジアの事例

【主査】 會田剛史（アジア経済研究所）

【幹事】 田中清泰（アジア経済研究所）

【委員】 嶋本大地（近畿大学）

高品質農作物の需要増加を背景に、先進国企業と途上国農家との間の契約栽培が近年注目を集めている。途上国における契約栽培についての既存研究の多くは、農家の経済厚生改善に注目している。そこで本研究ではカンボジアの輸出用有機栽培米と胡椒に注目して、既存研究で十分に分析されていない(1)非契約栽培農家へのスピルオーバー効果、(2)契約農家の選択と契約履行メカニズムについて、独自の調査を実施することで明らかにする。

(1-1-5) プローブデータによるトラックの越境オペレーションと時間の分析

【主査】 ケオラ スックニラン（アジア経済研究所）

【幹事】 同上

【委員】 早川和伸（アジア経済研究所）、浦田秀次郎（ERIA）

アセアン連結性 2025 (MPAC2025) は、①物理的な連結性、②制度的連結性と③人と人の連結性の改善を目指している。また、これを実現するために、数量的に評価できる目標の設置と監視が必要としている。本研究の目的は、高頻度の位置情報であるプローブデータを用いて、トラックの越境オペレーションや時間の分析方法を提案し、タイムリーな物理及び制度的連結性の監視と評価に貢献することである。

(1-2) ERIA 支援のための予備的研究

(1-2-1) 東アジアにおける原産地規則の決定要因

【主査】 早川和伸（ジェトロ・バンコク事務所）

【幹事】 同上

【委員】 浦田秀次郎（ERIA）、木村福成（ERIA）、棕寛（学習院大学）

本研究では、東アジアにおける地域貿易協定 (RTA) の原産地規則 (品目別規則) の決定要因を探る。東アジアでは、多くの RTA が重なって形成されているため、一部のメンバーが重複しながら複数の RTA が存在する。こうした特性を生かしながら、

原産地規則の決定要因を明らかにしたい。そのうえで、改めて現在の経済状況をもとに、各 RTA における最適な原産地規則を予測し直し、実際の原産地規則との違いを浮き彫りにしたい。

(1-2-2) 持続可能性認証に対する消費者の選好

【主査】 道田悦代（アジア経済研究所）

【幹事】 佐藤仁志（アジア経済研究所）

SDGs の達成をはじめとする持続可能な発展をしていくために、グローバル・バリューチェーン全体で持続可能性を高める取り組みを行うことが不可欠となっている。生産者の取り組みは行われているが、持続可能な社会をつくるためには、持続可能な財やサービスを需要する消費者の役割が大きい。本研究では、日本の消費者や小売業者がこれらの認証をどのように認識し、消費行動を行っているのか、消費者の役割について検討を行う。

(1-2-3) 東アジアのエネルギーバリューチェーン：コラボレーションとイノベーションによる石油ガスバリューチェーンのゼロカーボンへの適応

【主査】 植木靖（アジア経済研究所）

【幹事】 同上

【委員】 Antonio José Junqueira Botelho (Universidade Candido Mendes, Brazil)、Renato Lima de Oliveira (Asia School of Business, Malaysia)、安達祐子（上智大学）、Yanfei Li (Hunan University of Technology and Business, China)、Joonkoo Lee (School of Business, Hanyang University, Korea)、Neil McGregor (University of Newcastle Australia, Singapore)、Kwok Yung Godfrey YEUNG (National University of Singapore)、Dirk Michael Boehe (Mohammed VI Polytechnic University, Morocco)

東アジアのオフショア石油ガス（O&G）関連産業は、O&G グローバル・バリューチェーンにおける役割を拡大させてきたが、再生可能エネルギーへの移行とそれに伴うバリューチェーンの再構築という新たな課題に直面している。本研究は、2020 年度研究プロジェクトの成果（Ueki and Botelho 2021）に基づくオフショア O&G バリューチェーンに関する研究の深化と新たな情報の収集を通じて、東アジア O&G 関連バリューチェーンの脱炭素化への対応や、企業間連携を通じた再生可能エネルギー産業への参入等による再生可能エネルギーバリューチェーンの構築、地政学的制約および経済ナショナリズム主導の国内政策（ローカルコンテンツ政策、政府補助金）の影響を考察する。

(2) 成果普及（ワークショップ）事業

アジア経済研究所は、研究成果の普及や研究成果の最大化を目指し、ERIA や関係機関と共に以下の通りワークショップを開催するとともに、RIN ウェブサイトが本格的に運用を開始した。

RIN オンラインワークショップ

世界的規模の新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大が断続的に発生する中、東アジア各国では大規模な社会・経済活動の制限等の感染防止措置により、経済活動の縮小と成長の停滞が見込まれる事態が続いている。一方、ワクチン接種が進む一部の国・地域では人の往来が緩和され、経済活動の再開も始まるなど変化も出ている。

そこで域内研究機関およびERIAとともに、昨年引き続きオンラインによるワークショップを開催し、ポスト・コロナに向けた成長戦略に関する研究成果を共有し、域内研究協力を深化させる機会を設けた。本ワークショップは、ERIAを支える16カ国の研究機関から構成される「研究機関ネットワーク」（RIN：Research Institutes Network）の研究機関及びERIAの所属研究者を対象に実施した。アジア経済研究所からは木村研究員が競争と技術的類似性：中国ロボット企業のケースを、植木主任調査研究員がセクター間コラボレーションによるラオス手工芸品（素材）の可能性を報告した。

- ①日程：2021年10月28日、11月5日・11日・15日・26日・29日（全6回）
- ②テーマ：ポスト・コロナ時代の成長戦略 “Growth Strategy for Post COVID-19”
- ③報告者・モデレータ：11機関18名（ERIA、カンボジア、オーストラリア、ラオス、タイ、フィリピン、マレーシア、ミャンマー、インド、ベトナム、日本）

RIN ウェブサイト

東アジアにおける研究活動の深化に向けたプラットフォームとして、2021年3月に開設したERIA及び東アジア16カ国の研究機関ネットワーク（RIN）によるウェブサイトが本格的に稼働した。ジェトロ・バンコク研究部門が事務局として国際機関東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）及びRIN機関と緊密に連絡し、ウェブサイトを通じた相互の情報共有と研究成果や知的資源の発信を行い、各機関との相互交流を深めた。

(3) 研究機関ネットワーク会合の運営

ERIA を支える 16 カ国の研究機関から構成される「研究機関ネットワーク」(RIN) の役割は、ERIA に対する①研究実績・情報の提供、②研究課題や政策提言への助言、③ERIA が実施する各種事業協力調整等、の活動を実施することにより、ERIA が東アジアサミット (EAS) 等の政策会合の場で、首脳や閣僚に的確な現状認識・分析に基づく有効な政策提言を行うことを支援することである。アジア経済研究所は同ネットワークの日本代表機関を務め、また、バンコク研究センター (ジェトロ・バンコク事務所) /アジア経済研究所が同ネットワークの事務局を担い、以下の通り会合を開催し、ERIA の活動を支援した。

- ①日時：2021 年 11 月 22 日 (月)
- ②場所：オンライン
- ③出席者：16 研究機関、ERIA
- ④内容：ERIAの活動および研究プロジェクトの進捗報告とBRCによるRIN関連活動の報告が行われ、コロナ後における研究のテーマについて活発に議論した。また、アジア経済研究所よりオンラインに限定しない研究者間・機関間の交流拡大の一層の取組み強化について協力していくことを提案、ERIAを含めた参加者より賛同を得た。

<参考>

研究機関ネットワーク (RIN : Research Institutes Network)

○ERIAの研究活動について東アジア16カ国 (ASEAN10、日中韓豪NZ印) を代表する研究機関が支援する枠組み (2009年に発足) 。日本の代表研究機関はアジア経済研究所。バンコク研究センター (ジェトロ・バンコク事務所) /アジア経済研究所が RIN事務局を務める